

事務事業名	交通安全施設整備事業				担当	建設部 建設課 維持係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-8148		
施策名	8	交通安全の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	道路法					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和29 年度～）		
予算科目	1.一般会計	8.土木費	2道路橋りょう	2道路維持費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故の防止を図り、併せて交通の円滑化を目的として、交通安全施設整備事業を実施している。 交通量が多い危険な道路、事故の発生率の高い道路、歩行者の多い道路及び通学路にガードレール等防護柵、道路照明等の道路施設を整備しており、施設整備後においても施設の維持管理を実施している。 全国的に通学中の事故が多発しているため、通学路の合同点検を実施している。 							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 28年度実績 要望、パトロール、通学路の合同点検 調査 設計 実施 維持管理 29年度計画 28年度と同じ	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
	ア	ガードレール設置延長	m	302	359	367	323	400
	イ	道路照明設置数	基	1	1	0	4	1
	ウ	区画線設置延長	m	3,876	5,513	6,353	1,736	4,800
エ	通学路の合同点検回数	回	0	1	1	1	1	
オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 道路	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
	ア	市道認定延長（実延長）	km	1,279	1,281	1,287	1,286	1,286
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 安全で円滑な通過交通の確保をする。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
	ア	施設整備件数（工事箇所）	箇所	32	32	23	41	30
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 快適で安全な通行ができる道路を整備する。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
	ア	道路の整備状況が良いと感じている市民の割合	%	62.2	58.7	65.3	61.3	61.9
	イ							
	ウ							
エ								
オ								

(2) 総事業費の推移		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	11,964	10,832	11,010	10,878	10,650
	事業費計(A)	千円	11,964	10,832	11,010	10,878	10,650
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3
		延べ業務時間	時間	48	48	48	48
		人件費計(B)	千円	195	203	201	199
トータルコスト(A)+(B)		千円	12,159	11,035	11,211	11,077	10,849

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	交通事故の防止を目的に開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	道路の管理延長が増加している。 全国的に通学中の事故が多発しているため、H24年度に通学路の合同点検がはじめて実施され、H26年度から毎年実施されることとなった。 本市では、学校教育課、安全安心課、建設課、真岡警察署、各小中学校が合同で実施している。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	通学路の安全確保についての要望がある。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 道路の安全対策は交通安全を推進する市の施策体系と結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 道路施設整備は道路管理者の責務である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 道路の範囲に限定される。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 警察や関係機関と現地立会いを行い、危険箇所を把握し計画的に行っている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 通行の安全を確保できない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 道路管理者の責務となっている事業である。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 施設設置基準が定められている。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 委託可能なものは実施済みである。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 道路は不特定多数の人が利用する施設であり、公平・公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							